

「山科植物資料館を訪ねる」報告書

担当4班

【実施日】 2024年8月9日(金)快晴 参加人数 48名

【集合場所】 京都市営地下鉄東西線栂辻駅 10時

【行程】 栂辻駅→山科植物資料館→ガイドツアー→(班長会議・集合写真)→解散 1230

35℃超えの高温の毎日がつづく中、体調管理のため短縮活動を選択することになったが

本日は正にその選択が間違いでなかったことを証明するような暑さの中、無事活動が終了できました。

(セミナールームでの、日本新薬山科植物資料館館長さんのお話)

「1950年代、60～80%の園児に回虫が見られたとのこと、海外だけに頼ることなく回虫駆除剤サントニンを含有するミブヨモギの開発が進められた。当時は国家的ミッションであったとのことのお話に、現在の薬剤の発展に思いを馳せた。」

(班ごとに分かれてのガイドさんによる植物観察)

植物の観察で、その植物のどの部分が体のどこに効果があるのか、とても詳しく、分かり易く教えて頂いた。

質問にも親切に答えて下さり、違う切り口から植物を観察出来て、とても勉強になりました。

(所感)

回虫駆除剤サントニンを含有するミブヨモギの試験農場としてスタートした山科植物園を6班に分かれ、各班ごとガイドさんに案内していただき、植物の持つ毒を薬にして利用するお話がとても楽しかったです。

いろんな植物が見れてとても勉強になった。その中でも一番関心を持ったのがカギカズラで、カギが2個、1個と交互にあり、このカギの部分が高血圧低下の作用があるとのこと。ツタ性で林の中で絡みつくので山林で仕事する人から嫌われる。私はすごく興味を持った。



館長さんの説明



ガイドさんの水性植物説明



カギカズラ

